

令和3年産

# 仙台麦作情報

2021・2・22 第2号

宮城県仙台農業改良普及センター

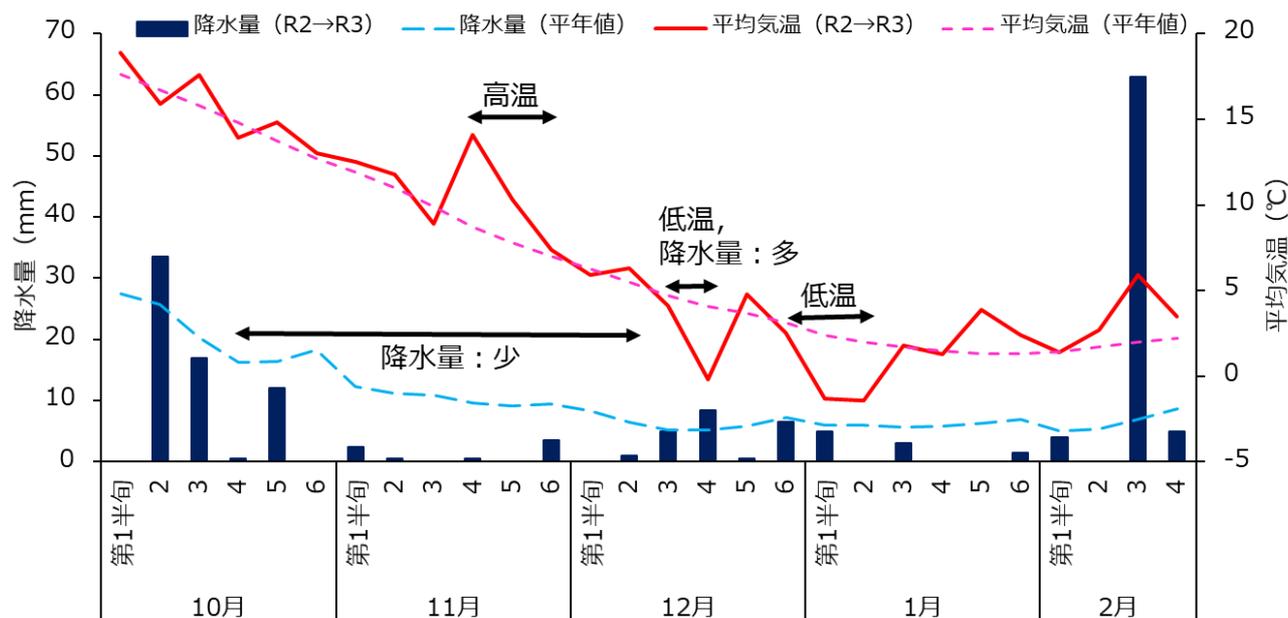
Tel 022-275-8410 Fax 022-275-0296

<http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

## 令和3年産麦作における栽培管理のポイント

- ①排水状況の確認
- ②茎立ち前の麦踏み
- ③幼穂形成期における追肥
- ④茎葉処理剤による雑草防除

### 1 気象経過（10月第1半旬～2月第2半旬，仙台アメダス）



#### ○麦生育・栽培管理への影響

- ・10月中旬以降の少雨 → 前作の作業が順調に進んだことに加え、天候に恵まれたため、適期に播種が行われた。また、出芽も良好だった。
- ・11月中旬の高温 → 生育良好
- ・12月中旬～1月第2半旬の低温 → 生育の停滞（気温4℃以下で生育が止まる）
- ・12月中旬以降の断続的な降雪 → 麦踏みの延期（主に北部平坦地区）

## 2 大麦生育調査結果（2月10日現在）

- ・生育調査ほ場においては、適期に播種されたことから年内の生育は良好だったが、鳥類による食害が見られた。
- ・今年度は気温が平年より低く、また降雪も多くなったが、茎数はいずれのほ場も 400 本/m<sup>2</sup>以上（越冬後の目標茎数）となった。大和ほ場における茎数は、前年を大きく上回る 914 本/m<sup>2</sup>となった（令和2年産は令和元年東日本台風のため播種が遅れ、その影響で生育が遅れた）。
- ・幼穂長は概ね 1.0mm となっており、幼穂形成始期を迎えた。
- ・適期に播種され、年内に生育が確保されたほ場では、今後の天候にもよるが 2月下旬～3月上旬に幼穂形成期（幼穂長 2～3mm）を迎えると考えられる。

表 生育調査ほにおける生育調査結果（令和3年2月10日調査）

ほ場 品種 (地帯区分)	播種時期	条間	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		幼穂長 (mm)	
			本年	前年 比%	本年	前年 比%	本年	前年差
大和町落合桜和田 ホワイトファイバー (北部平坦)	10/18	27.6	10.2	159	914	677	1.1	1.1
仙台市宮城野区岡田 ホワイトファイバー (仙台湾沿岸)	10/18	20.6	8.7	-	702	-	1.1	-
仙台市宮城野区岡田 シュンライ (仙台湾沿岸)	10/20	19.0	9.7	-	899	-	0.9	-

※仙台市宮城野区岡田のホワイトファイバー及びシュンライは1年目のため本年値のみ。



大和町ホワイトファイバー



仙台市ホワイトファイバー



仙台市シュンライ

### 3 今後の栽培管理

#### ①排水状況の確認

融雪や降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要。「暗きよの再点検（閉じていないか）」「明きよの手直し」を行う。



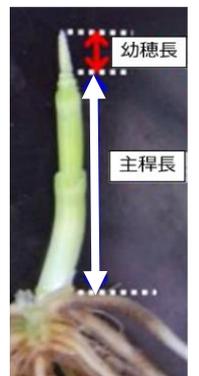
○排水環境の良い例  
額縁明きよとほ場内明きよが排水路につながっている



○手直しが必要な例  
ほ場内明きよが排水路とつながっていない

#### ②麦踏み

- ・越冬後の実施効果：分けつ増加、耐倒伏性の向上、過剰分けつ抑制、生育均一化等
- ・実施時期：雪解け（ほ場が乾いてから）～2月下旬（遅くても3月頭）頃まで
- ・麦の生育状況：茎立ち前（主稈長 2cm 程度、幼穂長 2mm 未満）まで  
※時期はおおよその目安であり、実際には麦の生育状況を確認し、麦踏みを判断する。
- ・下記の状態では効果が十分に得られないので、麦踏みは行わない。
  - 1) 播種の遅れや、湿害による葉の黄化や生育量が足りない場合
  - 2) 鳥類による食害が見られる場合
- ・「ホワイトファイバー」は、耐倒伏性が「シュンライ」と比べてやや劣る「やや強」であるため、越冬後は1～2回を目安に麦踏みを実施する。
- ・「夏黄金」は、遅れ穂の発生を抑制するため、必ず麦踏みを実施する。



幼穂長と主稈長

#### ③追肥

##### ○幼穂形成期追肥

- ・麦類は幼穂長が 2 mm を超える頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進むため、この頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招く。下表を参考に追肥を実施する。

※過剰施用は節間伸長を助長し倒伏の原因となるので、適期・適量施用に努める。

- ・生育量が少ない・湿害等で色が淡い・鳥類による食害が著しい場合は、幼穂形成期を迎えたら、速やかに追肥を実施する。
- ・「夏黄金」は、パン・中華めん用として、高いタンパク質含有率が求められる。そのため、追肥は幼穂形成期・減数分裂期・穂揃期の3回を基本とする。

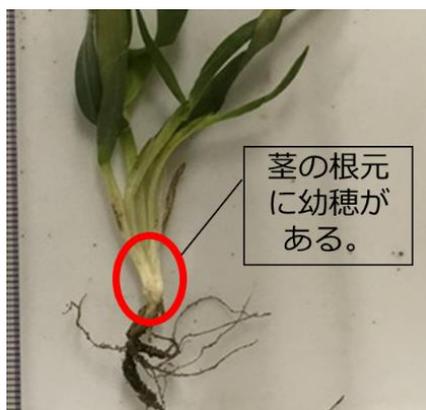
表 追肥の目安

麦の生育ステージ		幼穂形成期 (幼穂長2~3mm)	減数分裂期 (幼穂長20~30mm)
大麦	時期	2月下旬~3月上旬頃	4月上旬頃
	施用量	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)
小麦	時期	3月中旬~4月上旬頃	4月下旬頃
	施用量	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分4~5kg (硫安20~24kg)

※時期はおおよその目安であり、実際には現地ほ場の幼穂長を確認し、追肥時期を判断する。

### ○幼穂の確認方法

- 1) 主茎（分けつした茎の中で最も太い茎）を選ぶ。
- 2) 下の画像に○で示した箇所が残るように外側から葉を剥いていく。  
※内側の葉ほど根元付近は慎重に剥く（勢いよく剥いてしまうと、幼穂ごと持って行ってしまうため）。
- 3) 手で剥けないくらい大きになったらカッター等で外側から剥がす。
- 4) 幼穂が茎の中心部に見られるので、定規等で計測する。



麦類の主茎



剥き出し後の幼穂

#### ④茎葉処理剤による雑草防除

雑草の発生状況に応じて適宜、除草剤（茎葉処理剤）の散布を検討する。特に、幼穂形成期及び節間伸長期を過ぎると使用できる除草剤が少なくなるので注意する。

##### 〈主な雑草〉

- ・イネ科雑草：スズメノテッポウ、スズメノカタビラなど
- ・広葉雑草：ハコベ、ホトケノザ、ヤエムグラ、ノボロギク、スズナなど

##### 〈その他使用上の注意〉

- ・散布後、薬剤が乾かないうちに降雨等にあうと、薬剤が流れ落ちたりするなど効果が劣るので天候等に注意して作業する。
- ・対象雑草が限られているので、優先雑草を把握し、目的に合ったものを使用する。

#### ○1ヶ月予報（2/20～3/19，仙台管区气象台 2月18日発表）

向こう1ヶ月は、平年より晴れの日が少ないが、平均気温は平年より高くなる予報。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉



〈気温経過の各階級の確率(%)〉

